

---

# ゆ～すけ先生とTOM先生へのインタビュー記事

ポケポケパン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゆゝすけ先生とTOM先生へのインタビュー記事

### 【Nコード】

N2735I

### 【作者名】

ポケポケパン

### 【あらすじ】

ゆゝすけ先生とTOM先生へインタビューいたしました！

ご無沙汰しておりますポケポケパンです。

企画第三弾目はゆゝすけ先生とTOM先生をお呼びしております。

先生のお二方には再度御礼申し上げます、ありがとうございました。皆さんお忙しいのに私のインタビューに回答をしてくださり本当に感謝しております。

それでは早速インタビューの方へと参りたいと思います。今回も少しだけ質問を変えてみたりしてみました。この企画が続けば続く程、インタビューの質問が増えていくような気がします・・・。

・先生はこの「小説家になろう」サイトをどうやって知りましたか？  
ゆゝすけ先生

「面白そうな推理小説を求めてネットサーフィンをしていたら見つけました。」

TOM先生

「とある掲示板に、「友達がポケモン小説を執筆しはじめました。よければ読んであげてください。」という文と、小説のURLが投稿されていました。その小説が「小説家になろう」に投稿されていて、それでこのサイトを知りました。ちなみに今、その小説は消去されています。」

・ポケモンのファンフィクションを書こうと思ったきっかけはなんでしたか？

ゆゝすけ先生

「少年の成長の物語を描きたいと思ったのが始まりです。それを描くにはポケモンが適任だと感じたからです。」

TOM先生

「上の掲示板で知り合った方が、ホームページでポケモンのファンフィクションを執筆していました、その方が、「誰か一緒に書きませんか?」という投稿をして、それで自分もポケモンのファンフィクションを書いてみようと思いました。」

こちらで執筆しようと思ったのは、途中でネタが切れて、半年も経たずにオリジナル版は執筆をやめてしまったのですが、その後のアイデアが次から次へと出てきて、もう一度、別の所で書き直そうと思ったのがきっかけです。」

・ ゆゝすけ先生は以前のPNがユースケでしたが、改名したきっかけとはあったのですか?

ゆゝすけ先生

「以前のPNだと主人公のユースケと被ってましたからね。大分成長したユースケと僕を同じ名前にしとくのは失礼かな?と思い変更することにしました。でも全く違うPNになっても迷惑なので現在のものになりました。」

・ TOM先生は自分のペンネームをどうやって決めましたか?

「僕の名前をローマ字表記したときの一部です。ペンネームだけでなく、掲示板でのハンドルネームやラジオ番組へ投稿するときのラジオネームなどもTOMを使っています。」

・ キャラクターを考案する時にヒントを得たもの、あるいはアイデアをもらったことはありますか?

ゆゝすけ先生

「本当に時々漫画やアニメを参考にする場合があります。リョウマ

がいい例だったりします。」

TOM先生

「無いですね。完全に僕の脳内で産まれたキャラばかりです。」

・一話を書くのに有する時間はどれくらいですか？

ゆゝすけ先生

「本当にその時しだいです。代々書き初めてから2時間から5時間くらいですね。」

TOM先生

「普通の話は3時間から5時間くらいです。ただバトルになると、1週間くらいかかることもあります。」

・ポケモン小説以外でポケモングッズに関するちよつと誇示できるようなことはありますか？

ゆゝすけ先生

「残念ながら特に無いです。強いて言うなら、勉強机にしているカバーが未だに小学校の時から使っている初代ポケモンの151匹が描かれたカバーを使ってる事です。」

TOM先生

「ありません。僕の部屋は「本当にポケモンファンの部屋なのか？」と思うほど、ポケモン関連のグッズは置いていません。ただ、グッズではないのですが、僕のケータイにはDPt、HG・SSのBG Mが沢山録音されています。」

・ポケモンそのものにはいつ、どういったように出会いましたか？

(例：幼稚園の時にテレビで、小学生の時にゲームボーイなどで) ゆゝすけ先生

「確か保育所時代にアニメで見た記憶があります」

TOM先生

「小3の時の誕生日で、金を買ってもらったのがポケモンとの出会

いです。ポケモンの魅力にとりつかれたのは、1つ年下の近所の友達と「水の都の護り神 ラティアスとラティオス」を見たことです。あれがなかったら、これほどのポケモンファンにはならなかったでしょうね。」

・同じポケモンファンフィクション作者として意識、あるいは刺激をもらった作者さんたちはいましたか？

ゆゝすけ先生

「karyuさんやハビトさん、バクフーンさんにハーブさんLinoさん、TOMさん、プラネットさん……まだまだ沢山……とにかく多いです。まだまだ未熟なものでしているんならから刺激を受けています。」

TOM先生

「まずLino先生ですね。掲示板で紹介された小説の他にどんな小説があるのかと思って「ポケモン」で検索したとき、一番上にあつたLino先生の「ヒトカゲの旅」でした。この後何が起こるかというワクワク感や、思わず笑ってしまうような場面などで、今まで僕が思っていた「小説」というイメージが変わりました。

他にバクフーン先生からは、どのように書いたら読みやすいかというのを考えさせられましたし、ゆゝすけ先生からはトレーナーとポケモンとの関係を再認識させられました。

意識しているといえば、義成先生ですね。僕と同じようにシンオウ地方の旅を題材としているので、ストーリーが重ならないように気を配っています。」

・執筆中に特に気をつけているものはありますか？

ゆゝすけ先生

「誤字脱字ですね。後は1人称が主体なので視点となるキャラの個性が出るように心がけています。」

TOM先生

「テンションを一定に保つことです。自分のテンションによって物語の出来がかなり違うなと思っていきます。ストーリーの中で話し言葉が少なかつたらテンションが低いとき、話し言葉ばかりだとテンションが高いときに書いたところだと思ってください。」

・作品を投稿、連載していて嬉しかったことはなんですか？

ゆゝすけ先生

「自分の作品を通していろんな人と知り合えた事ですね。小説の絵を描いて貰った事もあり、どれだけ嬉しかったか……」

TOM先生

「読者の皆様から、「面白い。」というメッセージを貰ったときです。とくに「小説家になろう」の先生方からメッセージを貰ったときは、ここで執筆する事を認められたというような感じがしました。」

┌

・思い入れの深い話とキャラクターを教えてください。（例：一番書くのに苦労した、一番楽しかった、いろいろと試行錯誤をしたが結局断念したプランなど）

ゆゝすけ先生

「思い入れが深い話はユースケとランのお話ですね。書いてて時々、本当に真っ赤になってしまいそうな話もありましたから……思い入れのあるキャラは一杯いますが、一番はユウイチですね。ユウイチは中学生の時に書いてた探偵小説の主人公をコンバートしたキャラです。彼がいなければACEを書く事は無かったので、そんな意味では一番思い入れが深いキャラですね。」

TOM先生

「話は、義成先生と一緒に執筆した所です。僕にとっては初めてのコラボだったので、楽しかったです。」

キャラは、ユウタです。最初は僕の分身のような感じだったので

が、いつからか世界一（？）不幸な男の子になってしまいました。僕も、どんな風にユウタを不幸な目に遭わせようか、考えることが楽しみになってきています。」

・好きなポケモンを五つ教えてください。

ゆゝすけ先生

「他にもいるのですが、強いて言うなら、ユンゲラー、リザードン、ピカチュウ、ミュウ、カイリユースね。」

TOM先生

「ゲームのパーティーでの切り札（？）」「ゲンガー」

僕の最初のパートナーだった「チコリータ」

ポケダンで僕がなくなってしまった「キモリ」

レジ系で一番活躍した「レジスチル」

映画で自分を犠牲にしながらもアルトマーレを護った「ラティオス」

「

・先生にとってポケモンとはなんでしょう？

ゆゝすけ先生

「涙あり笑いありの最高のキャラクター達ですね。」

TOM先生

「恋人です。ポケモンのゲームをしていたり、小説を執筆していたりする時間が一番幸せです。」

・オーキド博士よろしくポケモン川柳を一ついただけませんか？

ゆゝすけ先生

「ケーシイを ゲットするのに 一苦労」

TOM先生

「この歳に なってもまだまだ ポケモンファン」



・読者の皆様には是非一言お願いいたします。

ゆゝすけ先生

「これからもよろしくお願いします」

TOM先生

「最近200話越えるんじゃないかなと思うほどかなり長いストーリーになりそうですが、どうぞ最後までお付き合い下さい。」

と、このような回答となりました。

もし私がインタビュアーしている質問以外にも聴きたい質問などがございましたらメッセージか感想欄で受け付けておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは最後は私個人の先生方のレビューで終わらせていただきます。と思います。

ゆゝすけ先生の「ポケットモンスターACE」、終始一貫熱いバトルがとて胸躍るストーリーでした。主人公ユースケとヒロインのランとの甘く幼い恋の行方などほほえましかったです。パートナーがケイシィからだったり、テレパシーで会話できたりなど……新鮮な要素も多く、ユースケとユングラーとのやり取りに思わず笑いを堪えなくなったりなどしました。続編となる「SS」も出されていて、成長したユースケやランに新しい主人公達の物語にはACEの時より顕在な熱いバトルが繰り広げられている燃えるストーリー展開が毎回楽しみです。

TOM先生の「ユウタのポケモンストーリー 出会い」は難聴のヨギーラスを連れて手持ちのコリンクと旅に出発する少年ユウタの成長を描いているストーリーです。章と章の間に登場する主人公と主要キャラ達の間で行われるチャットや、ラジオ放送、ニュースキヤ

ストなども本編と共に楽しめるという趣向も拵えてあり、いつも楽しく拝見させていただいています。TOMさんの作品では、どの先生方よりもポケモンとのスキンシップが描写されている気がします。その都度に描かれるユウタやヒカリとポケモン達との関係に胸打たれてしまいます。200話を超えたとしても、私はTOMさんのストーリーを途中で読み終えることはないと思っています。

インタビュー企画第三弾、いかがでしたでしょうか？

少しだけ私がインタビューをする先生方の順番がお分かりになりましたかと思われます。

次回はいつになるかはわかりませんが、お待ちいただければ幸いです。

ゆゝすけ先生、TOM先生、ご協力ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2735i/>

---

ゆ～すけ先生とTOM先生へのインタビュー記事

2010年10月15日22時15分発行